

新しい秋田へ。 共に、進もう。



PROFILE

宇佐見 康人(うさみ やすひと)

1984年4月2日生まれ。38歳。秋田市議会議員。市立土崎南小学校(剣道部主将)。市立将軍野中学校(野球部主将)。県立秋田西高等学校(野球部投手)。秋田経済法科大学(現ノースアジア大学)法学部。父親が経営する株式会社宇佐見経営に就職後、27歳で独立。起業家支援、地域活性化事業に携わる。31歳で秋田市議会議員選挙当選、35歳で秋田県議会議員選挙当選。現在は、県議会福祉環境委員会副委員長、自民党秋田県連総務副会長、同政務調査副会長。妻と3人の娘(7歳、3歳、1歳)。



秋田県議会議員

うさみやすひと

秋田県が抱えている多くの課題の根本的な原因は「人口減少」「少子高齢」です。コミュニティーの希薄化、小中学校の統廃合、財源不足、様々な業種での人材不足、災害対応の担い手不足など、挙げるとキリがないくらい多くの課題と人口減少問題は深く関わっています。

そのため、8年前の秋田市議会議員選挙で初当選させていただいてから、市議会でも県議会でも一貫して「子ども真ん中・人口減少対策」に真正面から取り組んできました。

少子高齢化が加速度的に進む中で、今までのように「あれもやります、これもやります」という政治からの脱却が必要だと考えます。これからの中の政治は、現状を伝え、やれることに限りがあるとしても次の世代を担う若い人や子どもたちが希望を持てる取り組みを進めていかなければなりません。次の世代にこの素晴らしい秋田を引き継ぐために、私たちの覚悟が問われています。

私事ですが、県議会議員としての任期中に娘が手術のために入院しました。今まで病児病後児保育の拡充や、その家族の支援

をはじめすべての人が安心して子育てと仕事の両立が可能な環境を整備できるように提案をし、前進したと思っていました。しかし、当事者になって、そうした仕組みがあってもアクセスしづらかったり、地域によっては活用すら出来なかったりという課題が浮き彫りになりました。また、障がいをお持ちの子どもがいる場合には一緒に登校しなければいけないという事案がまだ残っていたり、長期入院をした際の子どもの学習の権利が十分に確保されていなかったりと、全ての子どもが希望を持ち、親が安心して子育て出来る環境を作っていくためには、まだまだ解決しなければいけないことがあると痛感しました。

この4年間誰よりも質問に立ち多くの経験を積ませていただきました。そして、微力ではあっても無力ではないということを確信できました。

宇佐見康人は人口減少社会でも、子どもたちが夢を持ち、若い人が挑戦でき、先輩たちが安心できる新しい秋田を皆さんと共に創っていきます。

4年間でできしたこと——。うさみやすひとが、この4年間取り組んできたことをご紹介します。

県議会議員として活動させていただき、間もなく4年が経ちます。この間、誰もが安心して暮らし活躍できる秋田、その中で、特に子どもたちが健やかに育ち未来を担っていく秋田を創るために、精一杯活動してきました。議員最多となる通算8回の一般質問(2023年2月議会含む)に立ち、知事をはじめとした県当局との総括審査においても決算委員会を含めて通算18回の質問の機会をいただきました。一般質問は半年に1回、総括審査は

ほぼ毎議会質問、提案を重ねてきましたことになります。

また、福祉環境委員会では副委員長として職務を任せられ、新型コロナウイルス感染症対策や児童福祉、障がい者福祉の向上、カーボンニュートラル施策を中心に安心につながる提案をしてきました。

まだ道半ばではありますが、確実に前進してきている実感があります。一部ですが、紹介をさせていただきますので、ご一読いただければ幸いです。

1. 子どもたちの健やかな育ちのために

子どもの貧困、発達障がい児の増加、いじめ問題、ヤングケアラー、重度障がい児など、子どもを取り巻く課題は多岐にわたります。その解決に向けて、学校と福祉をつなぐスクールソーシャルワーカーの増員、SNS(LINE)を活用した相談体制、ヤングケアラー対策、189(いちはやく)専用ダイヤルの24時間化、児童虐待防止宣言などに取り組みました。



▲千秋公園にて娘と

2. 人口減少を克服するために

人口減少の克服と子育て環境の充実を目指し、プレパパスクール、周産期医療体制の強化、不妊治療の助成・保育料無償化・結婚への支援拡充、男性の育休取得率向上に取り組んできました。人口減少は内なる脅威であり、最重要課題です。これらを解決することで、先輩たちが安心して秋田に住み続けられる環境の整備にも繋がると考えています。



▲娘たちへの絵本の読み聞かせ

3. 持続可能な社会をつくるために

誰一人取り残すことのない社会の実現に向けて世界で取り組んでいるSDGsの推進。次世代に責任のある地域を残していくため、そして激甚化する災害に対応するためのカーボンニュートラルの実現と防災減災対策の強化。県内のプラスチックごみ対策の強化、18歳成人に対応するための消費者教育及びエシカル教育の充実に向けて取り組んできました。



▲LPガス議連幹事長として視察

4. 若者も女性ももっと活躍するために

先輩たちがいつまでも安心して秋田に住み続けていただくためには、若者の活躍、女性の活躍は欠かすことができません。そのため、プレパパスクールの実施、県庁のリモートワーク機能の強化、育休取得率の向上に努めてきました。性別や年齢に関係なく、一人ひとりが輝ける秋田を目指して引き続き頑張ります。



▲県議会と若者との意見交換会

5. コロナ禍を乗り越えるために

コロナ禍となり3年が過ぎました。議会の中では福祉環境委員会の副委員長として病床確保やワクチン接種の推進、リスクコミュニケーションの普及を行ってきました。また、非常事態宣言時においては、子どもたちの学びの機会の確保、飲食店等への支援についての要望書を知事、教育庁へそれぞれ提出しました。



▲コロナ禍での要望を直接知事へ



▲秋田の元気は港から

そして、これからも——。うさみやすひとは、これからも様々な問題に取り組んでいきます。

子ども「ど真ん中」
安心して子育てできる環境を!!

秋田県内の児童福祉の改善、子育て施策に係る所得制限の撤廃をはじめとした子育て環境の整備を引き続き訴え、次の世代が成長の時代を生き、現役世代が希望を持って暮らせるように尽力していきます。

新たな産業による経済基盤の強化
秋田の元気は港から!!

秋田港での自然エネルギーを活用した水素生成の拠点化や、ゼロカーボンによる下新城の新工業団地の整備を進めることで大きな可能性が巡ってきます。新たな産業で経済基盤の強化を推進します。

新県立体育館、新スタジアムの整備促進
スポーツで秋田を元気に!!

夢と希望を与えてくれるプロスポーツチームの活動を県としても後押しできるように、新県立体育館、新スタジアムの整備を促進します。特に、スタジアムについては10年近く目に見える進捗がありません。そろそろ結論を出しましょう！

不安定な時代の「食糧安全保障」
気候変動にも対応した農林水産業の支援!!

社会情勢の不安定化に伴う物価高騰、気候変動による農林水産業への影響が出ています。食糧自給率の高い秋田県が日本の台所となれるように、先輩たちがつないでくれた宝を育て上げ、新規就農者が希望を持てる攻めの農林水産業を促進します。

新型コロナウイルスを教訓に
東京一極集中の打破を!!

新型コロナウイルスの蔓延でサプライチェーンの脆弱性、東京一極集中の危険性が浮き彫りになりました。製造拠点の県内回帰を支援することで、東京一極集中の打破を目指します。また、防災減災意識を高めるため、リスクコミュニケーション教育を普及します。